

第3回ウィズあかし運営委員会 実施報告

日 時：平成31年2月12日(月) 18:00～20:15

場 所：ウィズあかし8階 学習室803

参加者：運営委員 12 名 明石コミュニティ創造協会スタッフ 7 名 市職員 2 名

1. 前半は、「これまでの振り返りとこれからのウィズあかし」について、第1回及び第2回運営委員会の内容を振り返り、最近のウィズあかしの状況やこれからウィズあかしが力を入れようとする事、目指そうとするものなどについて委員の方々と情報共有を行いました

【質問・ご意見】

(ウィズミーツ)

- ・ 会場が8階フロアに集約されていて良かった。
- ・ 事前準備にもう少し時間が欲しい。団体間で工夫もできる。
- ・ 「ウィズミーツ」知っていたら行きたかった。→もっと広報を。
- ・ ウィズミーツをきっかけに地域を巻き込んでいけたのでは。
→交流会やブース出展などでの参加呼びかけは行った。(連合理事会で)
- ・ 参加型の事業を実践中とのことだが、参加型の仕組みや工夫はあったのか。
→ ディズニーランド型(飽きさせない、待ち時間を工夫している)
- ・ 登録団体の潜在力は大きい。各団体を印象づけることや伝える力を磨く。
- ・ 事後アンケート
- ・ スタッフがいろいろな人とつながった。人が人を呼ぶ。
- ・ 団体名と個人の顔がはっきりとわかる。

(ウィズあかし)

- ・ 「ウィズあかし」は勉強をするところ、それから地域に出ていく。
- ・ 映画の上映会+サロン 例) 男女系の題材で
→来たことのない人が来やすいもので入り口を広く、若い層も来やすく。
- ・ あかねが丘学園やシニアカレッジなど高齢者とのつながりをもってほしい。
- ・ 若者は将来の担い手、学校や教育関係へ「ウィズあかし」から発信できないか。
→キャリア教育等
- ・ コーディネート力、会議の進め方、会議のまとめが重要。
- ・ 議論する市民の育成。

- ・ 学校や教育機関に向けて、ウィズあかしから発信できないか。
- ・ CSR（企業の社会的責任）として、企業の方にも来てもらえないか。（ボランティアなど）
- ・ いろんな意見交換ができ、リソースがあるのは良い。
- ・ あえてハードルを高くし過ぎないで、間口を広くしておくことも大事。
- ・ 来られない方たちの参加方法のひとつとして、ICT・ネット等での参加も検討しては。
- ・ 今後の働き方改革で個人の時間が増える時代になり、学ぶ時間・機会が増える。
 - 「ウィズあかし」にはチャンス
- ・ 大勢とつながること。

（広報）

- ・ 明石の西側（西部文化会館や図書館など）にも情報が届く工夫を。
- ・ 「男性相談」について、悩みを抱えている男性は多いがなかなか口に出せない。
 - 今後の広報や周知が課題
- ・ 高齢者はデジタル格差や情報格差などでどんどん取り残されていく。
 - 高齢者にも伝わる情報発信を考慮
- ・ 「ウィズあかし」の認知度アップにどうつなげるか、ターゲットやアプローチを考える。

（地域支援）

- ・ 西部のほうボランティアなどに積極的！？市民活動団体がまち協に入っていない。
- ・ 学校との関わりが難しい・・・、顧問として参加している地域もある。

2. 後半は、グループ（6～7名程度）に分かれ、2019年度のウィズあかしの取り組みへのアイデアやアドバイスなどを出し合いました。（下記のとおり、いただいたアイデア・アドバイスをジャンルごとに整理しました。）

【2019年度のウィズあかしの取り組みへのアイデア・アドバイス】

（学び）

- ・ 自分の世代を改めて学ぶ、ライフスケジュール（若者、中年、老人）。
- ・ 市西部エリアの女性の勉強の場を作る。
- ・ 地域における人権学習の必要性。
- ・ 地縁へ向けて男女共同参画の学習推進、女性の人権など。
- ・ 男女共同参画に関する講座の充実。
- ・ 身の回りの問題、福祉、老後の知識（医療）を学ぶ機会。
- ・ 人権学習は敷居が高いからこそウィズあかしで。（セクハラ、モラハラなどテーマを絞って）

- ・ 大学と連携。
- ・ 大学生などが研究課題に取り組む場。
- ・ 学生が講師（子どもや高齢者が受講者）。
- ・ リカレント教育。
- ・ 夜間の講座を開催。
- ・ スタッフだけでなく市民のみんなも知りたい（運営とか）。

（広報（情報発信））

- ・ まずはウィズあかしを知ってもらうこと。
- ・ ウィズあかしの情報発信（対象ごとに）。
- ・ 市の広報紙の利用をもっと出来ないか。
- ・ 子育て世代への情報を伝えるために。
- ・ 広報の具体化。
- ・ 広報活動先の具体化。
- ・ 認知していない人へのアプローチ。
- ・ 駅前でキャンペーンPR。
- ・ 施設PRの工夫。
- ・ 男女共同参画の認知度向上。
- ・ 男性、女性悩み相談の受付について、入力フォームでの申し込みにしてはどうか。
- ・ 各団体のイベント情報の発信。
- ・ ウィズあかしに行けば何か情報がある。
- ・ 情報のインプット、アウトプットを誰もが共有できる仕組み。

（場所・空間）

- ・ お茶コーナーの常設。
- ・ 学生も来やすいところになってほしい。
- ・ 独り暮らしの高齢者の集いの場所。
- ・ 学生用交流ボード、ママ用交流ボードの設置。

（地域）

- ・ 西部エリアの支援方法を検討、リサーチの実施。
- ・ 中学校区ごとにまち協×市民団体のお見合い。
- ・ コミュニティの再生。

（交流）

- ・ ウィズあかしな人10人紹介
- ・ 年代別に集まって話したい。
- ・ 他市のセンターとの交流会。
- ・ 老若男女みんなが参加できる。
- ・ 小規模なつながりイベント。

(機能強化)

- ・ 人材の発掘と育成。
- ・ ご紹介制度の充実。
- ・ 生活コーディネーター、国際理解・国際交流、文化・芸術とのコラボ。
- ・ 各団体との交流の仲人に。
- ・ 登録団体情報のデータベース化。
- ・ 個人のやりたいが相談できる。
- ・ ボランティアセンター機能。
- ・ ボランティア納税?!
- ・ 学生が企画を実践できる、学生とマッチング、学生が知識を持って帰れるなど。
- ・ 市内企業への研修プログラム。
- ・ 高齢者の経験をうまく利用する。
- ・ 赤ちゃん訪問事業へ働きかける。
- ・ シビックプライド、GCH (市民幸福度)、QOL の向上。
- ・ インクルーシブを意識した取り組み。

(アウトリーチ)

- ・ コンテンツなどパッケージ化してさまざまな場所へ持って行けるように。
- ・ 市西部でも催しや会議、講座など現場へ出向く。
- ・ 出前講座の講義内容の作成。